

都医師会尾崎会長「医療機関にマスク、高齢者や基礎疾患ある方はワクチン接種」お願い
7/12 トウキョウヘッドライン

東京都医師会は11日、都内で新型コロナウイルスの現在の感染状況について定例記者会見を行った。



尾崎治夫会長は「5類移行後もまだまだ新型コロナウイルス感染症は続いている」としたうえで、現在の感染状況について「定点観測ですが、新規感染者数は5類移行前に比べて約4~5倍、増加比は約1.1倍。約4週間後に約1.5倍になると予想され、入院患者数や東京ルールの適用件数を見ても新型コロナで医療がひっ迫している状況ということはありません」と報告した。

「ただし、この猛暑で熱中症などが加わっており、昨日は救急車の出動台数が3000台以上が出ているという意味でひっ迫している。また、小児科で新型コロナ以外の感染症が増えていて、外来が大変だということは聞いている」と注意喚起。

改めて「5類に移行したことで“新型コロナは普通の風邪なんじゃないの”という解釈が若い方を中心に増えていて、外来や医療機関に行く時にマスクを外している方が非常に増えている。診療科によっては8割くらいの方がマスクをしていないクリニックがあるとも聞いている」といい、「今、どんな医療機関でも基礎疾患を抱えている高齢者の方がたくさんいらっしゃる。ぜひ診療科に関わらず医療機関を受診する、あるいは高齢者施設に行く時は、着実に感染者が増えているのもう一度しっかりマスクの着用をお願いしたい」と呼びかけた。

さらに、高齢者や基礎疾患のある人に向け「最近、静岡県内で入院した中等症II以上の高齢者を調べ、ワクチン接種回数が0~3回の方が多いという結果が出た。今、高齢者

や基礎疾患のある方を対象にワクチン接種を行っているので、まだワクチン接種を済ませてない方はぜひこの機会に接種してもらいたい」と注意喚起。

今後、感染拡大させないために「以前のように隔離などは必要ないわけですが、ご自分で今日は体調が悪いな、ちょっと熱っぽいなという時には自主的に仕事や学校を休むなどしていただきたい。医師会が経済社会活動をどうしろということは、私は一切言うつもりはありませんし言う資格もありませんが、一人ひとりが気をつけながら経済社会活動を回していくことがこれから大事になってくると思う。猛暑なので冷房をかけて部屋を締め切っていることが多いと思うが、その中でも定期的に換気をしていただくことも大事」などと説明した。

また、都医師会の新役員について発表。6月18日に行われた定時代議員会で新役員が選出され、会長は現職の尾崎治夫会長が5期目を務める。副会長は猪口正孝氏と角田徹氏が退任し、蓮沼剛副会長、土谷明男副会長が新たに就任。新しく増田幹生理事、小平祐造理事、荘司輝昭理事の3名の理事が選出された。

都医師会・尾崎会長、保険証廃止は「信頼できる制度になってからどうするか考えるのが道筋」

東京都医師会の尾崎治夫会長は11日、定例記者会見の中でマイナンバーカードの保険証利用について見解を述べた。

尾崎会長は、報道陣の質問に対し「マイナンバーカードそのものはインフラというか制度、仕組みとして将来的に日本で必要なものだと私は思っています。税の問題、社会保障の問題、我々が今後目指している医療DX事業の基盤となるカードであることは間違いないので、これをやめるべきだとはまったく考えていません」と言及。

「ただし、日本には漢字とカタカナと平仮名がありますし、たとえばオザキの『ザキ』でも『崎』の人もいれば『崎』の人もいる。タカハシならタカハシで戸籍上の字にみんな違いがあります。住所表示でも『1-1-14』と書く場合と『1丁目1番地14号』と書く場合、いろいろな書き方をされていて、その入力を間違えると個人にたどり着けないことがたくさんあると聞いている。マイナポイントの付与などで、マイナンバーカードを取得する人が一気に3500万人ほど増加したので、そういう中で内製作業が困難を極めていることは事実」

と一定の理解をしたうえで「政府のほうも見直していただけるということですが、じゃあ（2024年）秋頃までに見直せるかということ、自治体の方々は本当に頑張っていると思いますが、私はかなり厳しいのではないかと思います」と苦言を呈した。

さらに「現在の健康保険証による国民皆保険制度の中で、診療所や病院で医療を受診するという点に関して、今までこれといったトラブルは少なかったわけです。今のようにマイナンバーカードで受診され、なかなか個人が特定されなかったりということが続くと、将来的に必要なマイナンバーカードに対する国民、都民の方々の信頼が取り戻せなくなってしまうのではないかと。保険料をきちんと払っている方の保険証が使えないということになると、それはそれでまた問題になる」と危惧。

尾崎会長は「（保険証を）廃止するまでの間に資格証明書を交付するという話もありますが、新たなものを出すにあたってそれなりに負担が生じてきますし、そこに間違いが起きないわけではありません。マイナンバーカードの内製作業がしっかりできて、現行の医

療機関の体制の中で全国的にきちんと保険診療ができる仕組みになって、受診される方も
“これだったらマイナンバーカードを使って受診できるね” という状態になった時に、
初めて従来の保険証を廃止していくのが一番だと思う」との方向性を示し、
「マイナンバーカードが制度上の仕組みとして、きちんと成り立つことを見計らいながら
従来の保険証を廃止していくという順番を取ることが、我々医療機関にとっても被保険者
の方にとってもいいこと。日本の皆保険制度をしっかりと運営していくためには、あまり拙
速に急がないで、十分信頼がおける制度になってから従来の保険証についてどうするか考
えていくのが道筋ではないか」と提言した。